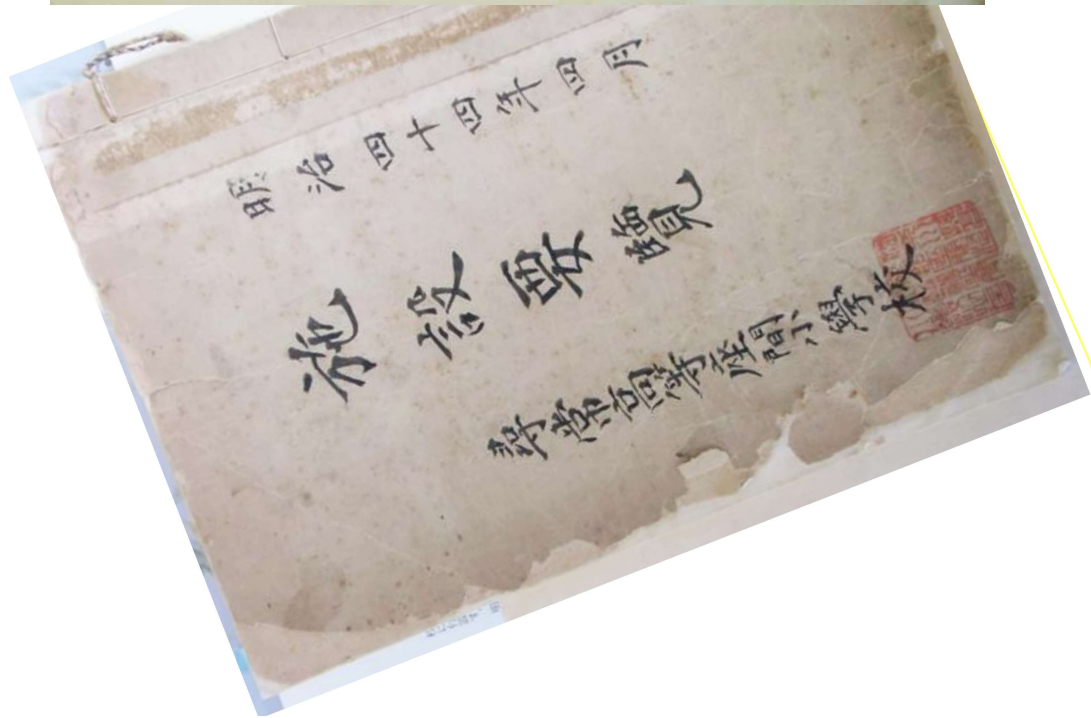


# 第六章 座間の教育に係わる冊子資料

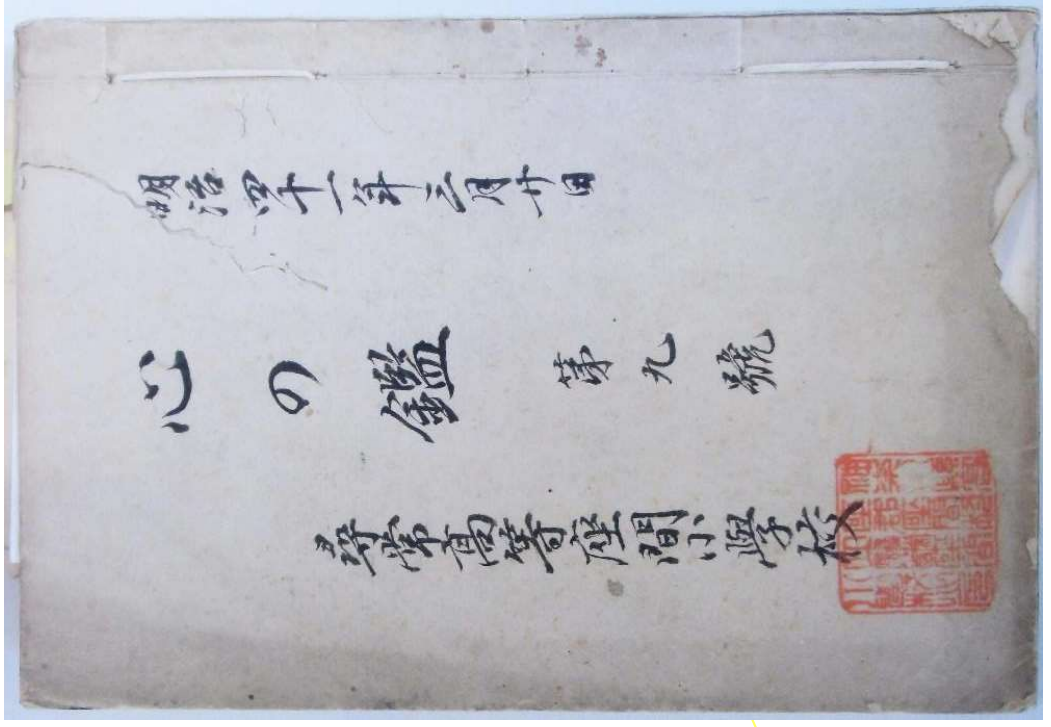
- 座間小学校施設要覧(明治編)
- 心の鑑
- 座間小学校施設要覧(大正編)
- 道徳的生活の完成と綴方科の関係に就いて

# 座間小学校施設要覧 明治編・大正編

一 師に對する態度觀察。  
 一 敬を信ずるに篤きや否や  
 一 師を敬するに篤きや否や  
 一 師に親しむに深きや否や  
 二 朋友に對する態度觀察。  
 一 喧嘩や論を行はざるにきよきや否や  
 一 人の善を以て幸福を得るに喜ぶにや否や  
 一 謙讓の心ありや否や  
 一 相親と善くするに風ありや否や  
 一 互に善を勧めむるに風ありや否や  
 一 寛大に容れざるに風ありや否や  
 一 信義を重んずるに風ありや否や  
 一 禮儀を重んずるに風ありや否や  
 一 同情の心深きや否や  
 三 上級生に對する態度觀察。  
 一 柔順ありや否や  
 一 下級の男児に上級の兄と敬し又之に對して柔順ありや  
 一 上級の男児に於ては如何なるにや否や  
 四 下級生に對する態度觀察。  
 一 同情の心深きや否や



# 心の鑑



# 編集にあたって

大谷先生のご尽力  
市内にない資料を、多方面に探しに出かける  
資料のコピーをもとにワープロ入力も  
資料の検討、有機的統合

## 研究員の苦勞

手書きの文字を読み取りにくい  
旧字が読めない  
何度チェックしても間違いがある

# 碑文を読み取る



写真撮影のためなら

太陽光線の角度が

文字を読み取るのに

適切になる時刻まで待つ

木の葉がなくなる季節も待つ

# 碑文を読み取る

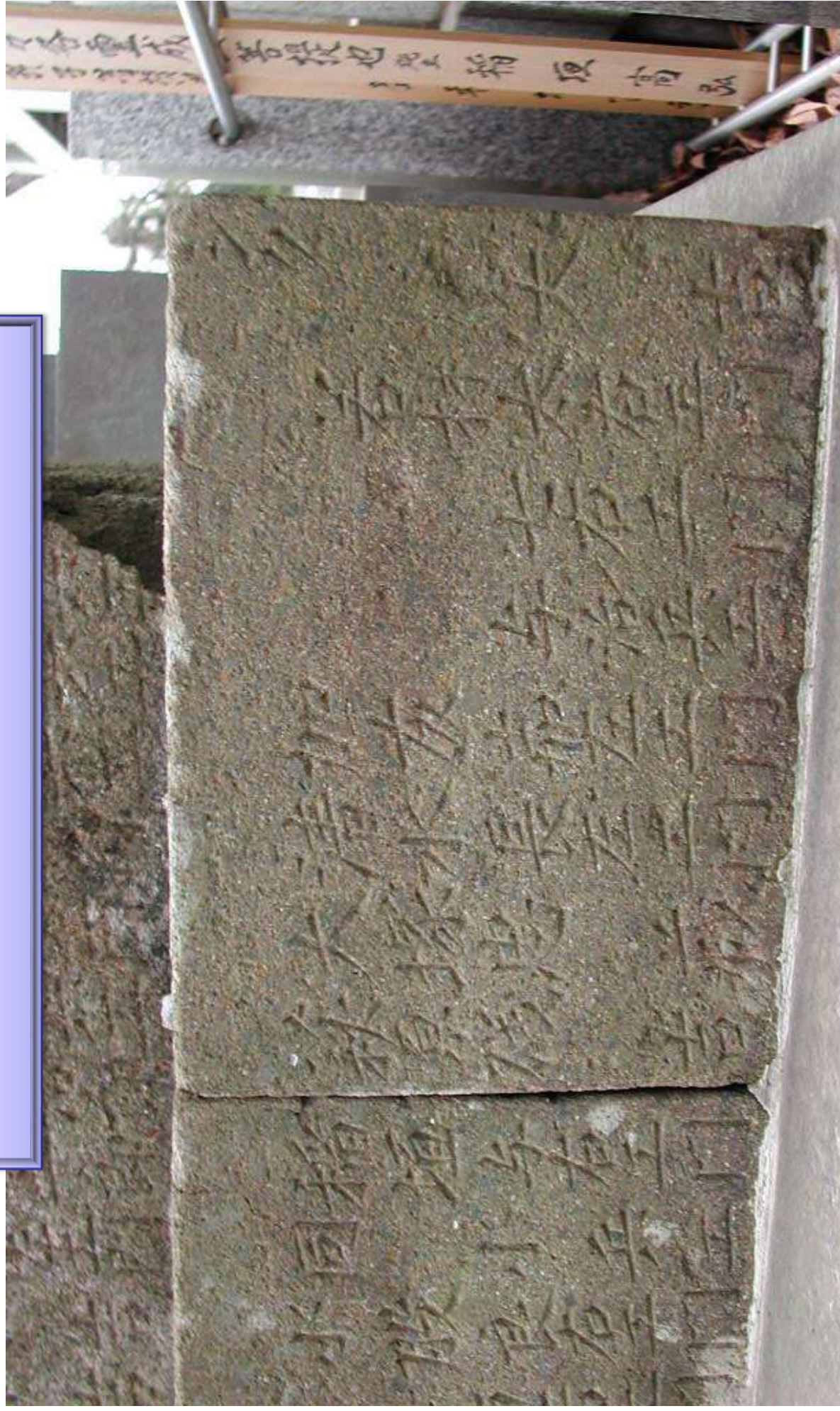


せまくて碑文が読みにくい  
鏡とデジタルカメラではっきり写す



# 碑文を読み取る

問題なく読み取れる部分もあるが・・・



# 碑文を読み取る

風化している場合は  
鏡で光を当てて



照金剛





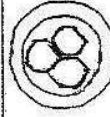
# 碑文を読み取る



# 見どころ

- 寺子屋、筆子塚に関する資料
- 郷学校「誠志館」から栗原学校へ
- 座間小学校誕生までの変遷
- 施設要覧、学校運営
- 県、郡視学の巡視と指示
- 幼年会の浸透
- 少年団、青年会、処女会の発足
- 普通教育奨励旗授与前後の様子
- その他、当時の生活

# 寺子屋、筆子塚に関する資料



梅岸院

宝曆二申天

靈

功譽徳源信士

七月廿二日

位

碑の形  
文字の配置

できるだけに  
実物と同じに

施主筆子

連中

# 寺子屋、筆子塚に関する資料

イリヤ

宮川儀兵工

ススカ

齋藤弥五郎

イリヤ

高橋為藏

シント

峯尾惣右工門

シテン

新田一胤

シク

片野昌右工門

イリヤ

野嶋安治郎

イリヤ

齋藤喜三郎

ハ

加藤徳治郎

セ

大塚重郎工門

サマムラ

若林清左工門

発起人

風化剥落した部分

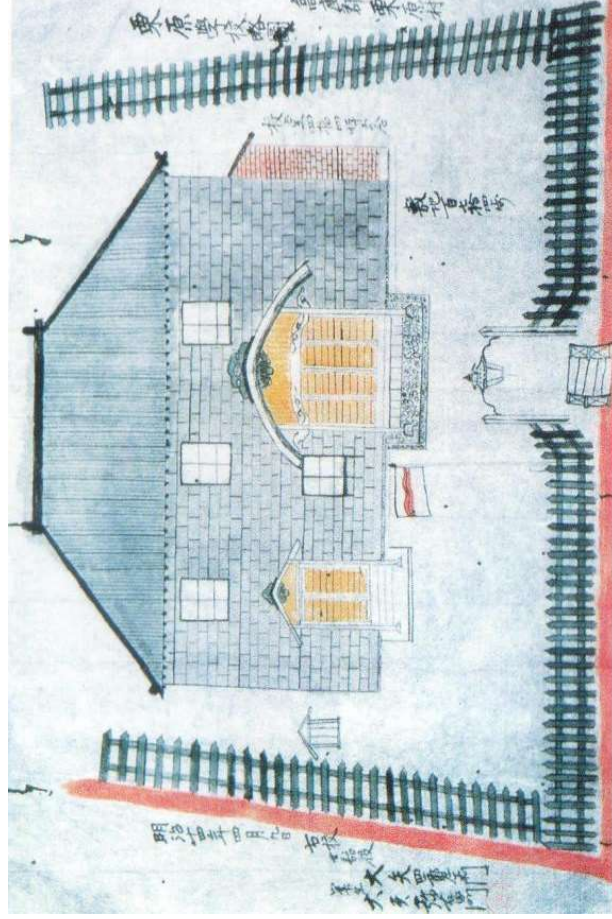
資料として最後のものになる

# 協同学舎から栗原学校へ

学制により、村ごとに学校を建設しなければならない

協同学舎設置→栗原村分村により廃校の危機

## 専福寺に栗原学校建設



### 大矢弥市、弥七の尽力

学費すべて無料  
亜鉛葺き洋風二階建  
校門にシヤンデリア

近在にはないモダンな学校

# 座間小学校誕生までの変遷

学制発布

風牛学舎開校（龍源院内）



座間学校



座間村学校が座間学校から分離 同じ村に2つの小学校

（座間入谷村と座間村の利害関係）

2つの小学校の合併を県に陳情するグループ

対立

合併反対を県に陳情するグループ

# 学校の統合

国の方針として、一村一校

座間は違っていた

県からの指示により  
大正十一年までに、すべての学校が合併

座間小学校

栗原分教場

新田宿仮教場

# 明治天皇皇后兩陛下 御真影下賜

明治二十九年 栗原小学校

明治三十二年 座間小学校

栗原小学校の方が3年早い  
(経済的な基盤の差か?)

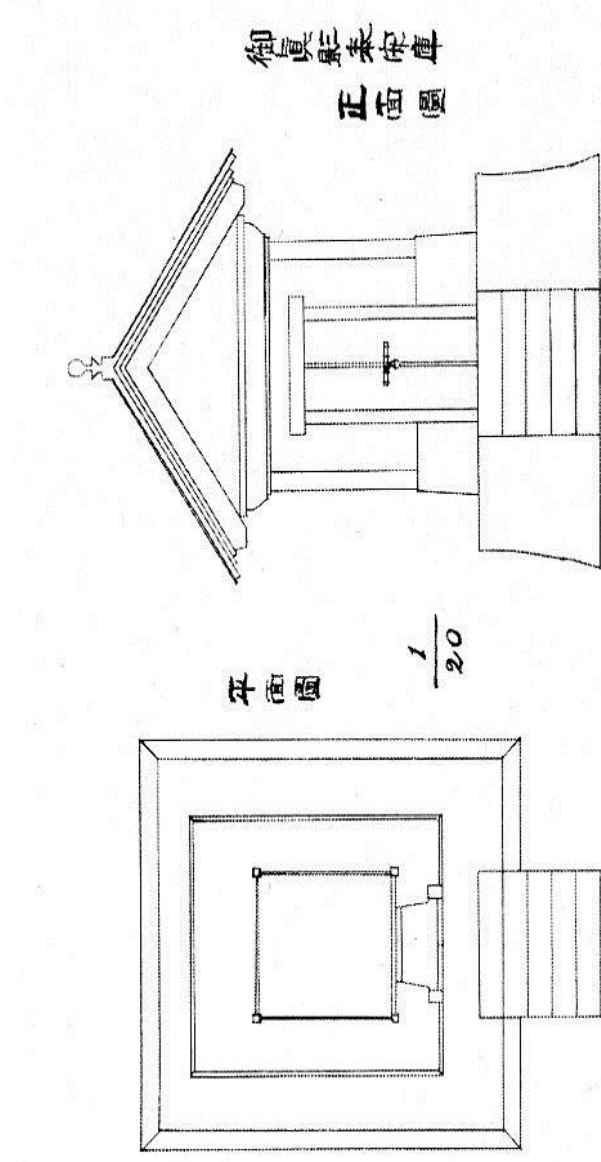
しかし2つの学校が合併し  
栗原小学校は御真影を返納



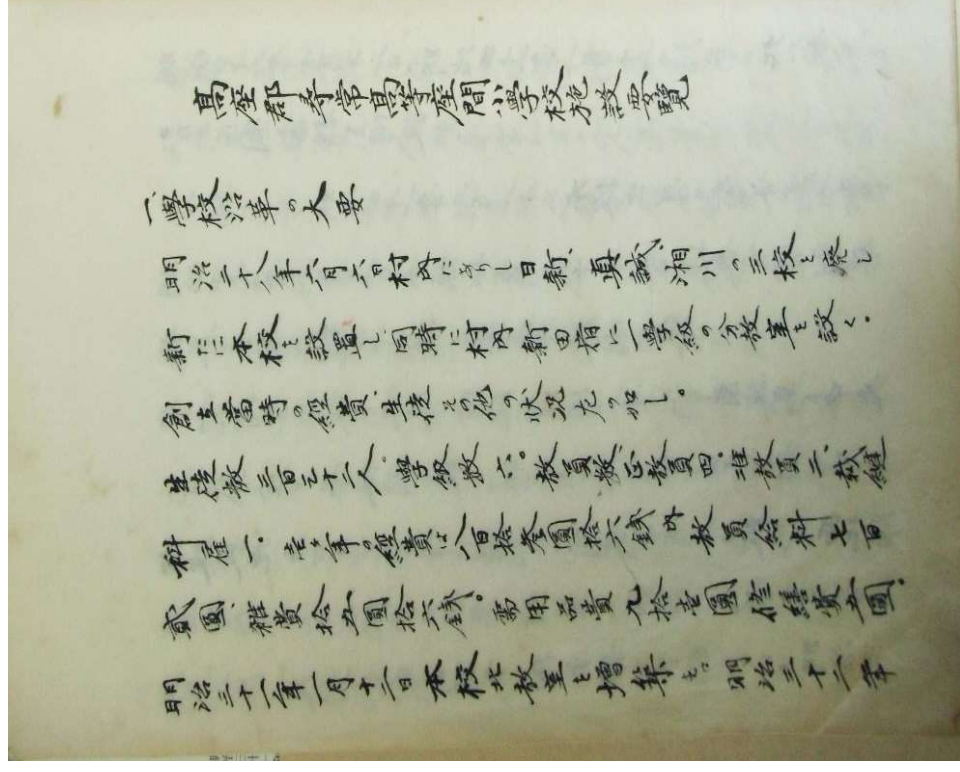
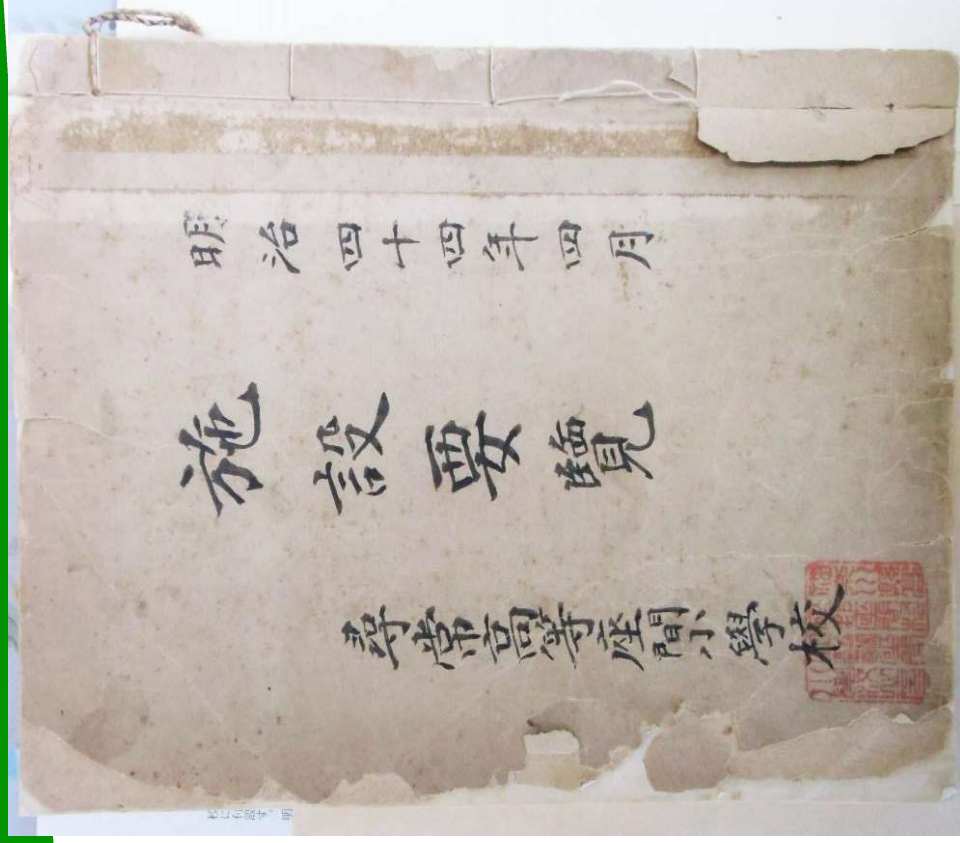
# 奉安殿

大正十一年  
近隣小学校で、火災のため御真影を消失

座間小学校では耐火石造の奉安殿を建設



# 施設要覧、学校運営



施設要覧 = 現在の学校要覧に相当する  
明治44年版と大正9年度版がある

※ 注目するところ…「道徳的訓練上より見たる児童看察要項一覧表」

→ 児童の心の動きをどのような視点から観察したら良いのか示されている。

# 県、郡視学の巡視と指示 珍しい資料

視学・・・学校、教師、生徒などを管轄する、現在の指導主事  
ただし人事権を含む学校運営上の強大な権限をもっていた

頻繁に学校に巡視し、授業や帳簿を見たあと意見を述べ  
県や国に報告した  
これによって学校や教師の評価が決まった

明治40年 郡視学が朝6:50来校  
帳簿と授業を見て8:10に帰った

明治42年 文部省視学が座間小学校訪問

学校の校訓  
心の鑑の活用

教育勅語を低学年にもわかりやすい文章に改めて指導していること

この3点に感激し、書き写して持ち帰った

# 少年団、青年会、処女会の発足

## 少年団

座間小学校に在籍する尋常科5年生以上の男児すなわち座間村幼年会員の一部を以て組織されたものであるが、全国組織への加盟に際して、座間村幼年会ではなく、全国的に一般的な名称である「少年団」を採用した。

## 青年団

日露戦争後には、郡からの働きかけを受けて、座間村内にも青年たちの組織として青年会が作られた。

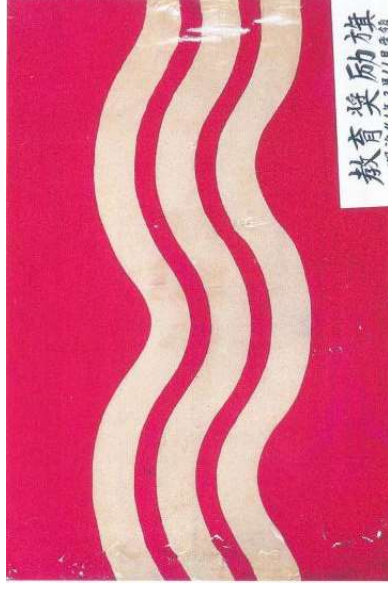
## 処女会

大正6年「高座郡青年会長協議事項」に「青年会の統一改善を期として此際各町村に処女会設立の必要あるを以って之が設立に相当努力すること其会則は青年会則に準拠すること」とあり、これを受けて、座間村処女会が発足した。

# 普通教育奨励旗授与前後の様子

明治三十九年 教育奨励制度発足

教授訓育に関し成績特に優秀なる小学校に  
教育奨励旗を授与する制度



県や郡の視学が座間小学校を何度も巡視

明治四十一年 座間小学校が  
教育奨励旗を授与される

# 普通教育奨励旗授与前後の様子

教育奨励旗授与を記念して  
子どもたちにお菓子をあげよう

「いや、もっとよいものはないか」職員会議で議論

全員に心の鑑(かがみ)という名のノートを配布

自分で心の成長を記録する

# 日露戦争のため、貯金を推奨

生徒は郵便局に貯金しなさい

- ・自分で働いて得たお金
- ・欲しいものを我慢したお金
- ・お祝いにもらったお金

通帳を校長が年数回検閲  
預金を下ろすには**校長の承諾が必要**

小学生からも戦費を調達していた

職員は俸給の5%~10%を強制的に貯蓄  
転任、退職以外には払い戻しができない

# 運動会(明治三十五年)のプログラム

徒競走、二人三脚

汽車競走

背負い競走

交互子負い競走

千鳥競走

裁縫競走

軍艦競走

載囊競走

どのような競技なのか？



# 定期試験落第に対する抗議

明治十二年 定期試験に落第(不合格)となった生徒がいた

当時は半年ごとの試験に合格しないと進級できなかった

生徒の解答は正しい  
それでも落第とするなら問題が間違っている  
など、座間小学校の教員が、県の学務課や  
県令(現在の県知事)に何度も抗議した

しかし受け入れられなかった

# 関東大震災の被害

座間小学校

栗原分教場

被害少

すぐ授業再開

新田宿分教場

被害大

授業できず

台地と沖積面

立地によって被害が違ふ

今後も検討を要す

# 幼年会の浸透

明治33年 子どもたちを自宅に集めておこなった  
夜のお話し会が幼年会に発展



自分たちの手で自分たちの町をよくする  
人を変えていくなからまず子どもたちから

「面白い噺と暖かい同情とを持って  
子どもの世界に没入した青年には  
子どもを自己の理想に導くのは  
甚だ容易で有る。」 利貞

# 柿の木の下の誓い

- 一 喧嘩と悪口と意地の悪い事は為ぬ事
- 二 大きい者は小さい者を可愛がる事
- 三 小さい者は大きい者の言ふことを聞く事
- 四 學校で先生の教へられた事は家の方へ来て必ず其の通りに守ること

これが本市が推進する

「豊かな心を育むひまわりプラン」に生きている

豊かな心：自分の生き方に自信が持てる心

豊かな自己表現が果たせる心

郷土を愛せる心

# 気品のある教育尊重の町

小学生が先生を幼年会の集まりに招く

女子は外套、帽子、履き物の世話・・・(賓客を迎えるのと同じ)  
手あぶり火鉢、茶菓のもてなし

男女の働きの調和

「今晚は誠にご苦勞さまでございます」

「卒業までに何か私達の致します様な事は有りますまいか」

「先生のお教えを承りたいものです」

明治から大正にかけて、座間小学校では当たり前の光景だった  
この心を今の子どもたちに伝えたい

ご静聴  
ありがとうございました

